

南海軌道線 電1形 形式図

1911年と12年に製造されたポールカー
モニターーフと呼ばれる角ばった屋根、2本式のポール、オープンになった出入口、
その上隅の飾りなど、古めかしい木造電車の典型の一つであるが、製造当時は
高速路面電車として評判になったもの
49輛製造され、図は大型救助網をとり、ヘッドライトを固定式にしてからの姿
電2形もほとんど同型で、大部分が鋼製モ201、205形に生まれ変わった

